長尾　義和

一、能勢を明日につなげていくために
二、能勢栗、銀寄の獣害対策を問う

能勢を明日につなげていくために

問 定住促進と雇用の創出の具体策は。

答 集落機能を維持し、発展させていくには、地域に雇用を創出し、人口の定着を図ることが喫緊の課題と認識している。今後、社会情勢の変化を踏まえ、農業、観光分野など多様な産業立地の誘導に向け、効果的な土地利用を進めていく。

問 子育てに対する経済的不安の軽減対策は。

答 本年度より小学校入学祝金制度の創設や子ども医療費助成の拡充、奨学資金の見直しなどに予算の重点化を図っている。今後も、地域社会全体で子ども、子育てを総合的に支援できる体制づくりに取り組んでいく。

問 高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせる風土づくりを。

答 いきいき百歳体操の地域展開や生涯学習人材バンク、60歳の成人式など、高齢期を迎えても地域で活躍できる生涯現役社会の実現に取り組む。また、社会福祉協議会等の関係機関と連携、協力を図り、在宅医療を含めた地域包括の体制を整備していく。

能勢栗、銀寄の獣害対策を問う

問 能勢のシンボル、財産である銀寄は、農産物と同様の獣害対策が必要ではないか。

答 野生鳥獣による樹皮剥ぎや苗木の食害などの被害は認識している。

銀寄は、能勢が原産であり、重要な財産である。農協、大阪府等と連携し、検討を進める。

一般質問

伊木 真由子

一、認知症がある高齢者への対応
二、本町の子ども・若者の現状は
三、残土投棄の今後の対応

認知症がある高齢者への対応は

問 国は認知症高齢者の数を、予備群を入れて約862万人いると推計している。本町の人口を国の1万分の1とした場合、人口1万1897人の内862人ほどいると認識しているがどうか。

答 推察のとおりである。

問 今後の対応を問う。

答 できる限り住み慣れた地域で暮らす事ができるよう、適切なサービス提供に取り組んでいる。

問 相談できる体制はあるが、十分に活用されていないのではないか。

答 いろんな形での相談できる場所づくりに努める。

本町の子ども・若者の現状は

問 大阪府と共同で行った、子どもの生活に関する実態調査を踏まえ、行政の今後の対応を問う。

答 現行施策の改善・拡充を図っていく。

問 本町主催で子ども・若者の現状についての講演会を行ったが、今後本町でどのように活かしていくのか。

答 支援のあり方や支援の環境づくりに取り組む。

残土投棄の今後の対応は

問 6月議会において、町内各地で土地改良の名目で、建設残土等が投棄されている事態について質問した。今後このような事がおこらないための対応について考えを問う。

答 12月議会に、条例提案を予定している。

問 本町では宿野北区や野間中のような事例もある。このような事例にも対応できる条例を検討していくのか。

答 設定面積以下の対応を含め検討している。